

**種の概要**

東京湾から沖縄県までに分布する。甲幅20mm。河口ヨシ帯の上部、満潮時にかろうじて冠水するような場所に生息する。打ち上がった流木や投棄された化学肥料のビニール袋の下にすることが多い。体色は白いが体表には常に泥が付着しており、泥色に見える。甲面は凹凸があり、側縁には弱い切れ込みが2つあるが、泥の付着で不明瞭となる。動きは遅く、同所的にいるユビアカベンケイガニ(その他無脊椎動物Cランク)などが素早く逃げてゆくのにに対して、その場でじっとしていることが多い。

**主要な選定理由**

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	△			○

**県内分布**

加古川市、高砂市、たつの市、赤穂市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

ランク変更なし。播磨東部から西部の河口干潟で確認されたが、各生息地での生息数は極めて少ない。生息場所は河口域に広がるヨシ帯の上部にすることが多く、阪神地域や淡路島では好適な生息環境は極めて少ないと思われる。

**保護上の留意点**

本種の生息域はヨシ帯の上部であり、そのような場所は河川敷では護岸化されていることが多く、小規模な中州では地盤高が低すぎることも多い。このため特に瀬戸内海側東部における多くの河川では、すでに好適な生息域が残されていない。河川整備の際には比較的地盤の高い場所まで植生を残すような工夫が必要である。



写真提供：増田修



写真提供：西宮市貝類館

【執筆者】 渡部哲也